

B
清國、出師準備

1577

井 (45) B 六月四日

○弘兵準備ノ事實

六月四日ニ至リ、直隸提督葉志超ハ統領武毅軍聶士成等ノ三營ヲ海ト甯南海
定ノ兩船ニ裝載シ、日ヲダシテ出発スル之ヲ需用ノ軍器及彈ヲ庫藏所ヨリ支給シ
テ報ヲ得リ

五日蘆台ニ於テ又ハ、明六日葉提督聶統領ハ武毅軍副中宮公光前營(光前營ハ隊ヲ
信有、駐死ハ明
ヲ有ス、隊ヨリ百人ヲ派シ)古北練軍、右宮ヲ率ヒテ朝鮮ニ向ヒ出発スルヲ、當日營中ノ
靜肅ス、一平素ノ憂ナキ、唯市上ニ、五、兵士ノ群出征リ、談ヲスル間、別ニ飯食并ニ準備
ヲ見ス、而シテ軍械所ヨリ武毅友正定練軍(山海關ニ在リ)ニ支給セシ武器及彈厄ノ如シ

武毅軍

軍備進而、砲後、鐵過山砲

鉄身双輪發車

大本營

四萬計也、
山縣、
見全

海軍ハ五日塘沽ニ着シ以正足練軍、屬スル武器及彈ヲ裝載シ六日午前三時山海關ニ向
ケ出帆ス

其日武毅軍副中官全老前宮右北口練軍右官兵在リ八有人許リ副中官練軍後宮ハ二十人
ハ百餘人野山ニ其場所ヤス外 六日午前九時津浦中ヲ塘沽ニ着シ開平礦務局埠頭ニ裝荷セ
ル南ニ午前午後兩方ニ分テ各ハ四十分餘ヲ費ス過キ是ヨリ先々柔馬八十餘頭ハ已ニ前南ニ裝載
セリ四時三十分滿洲ニ着シ解纜ス統領夏士成ハ午後五時過遼寧中ヲ着シ小蘆溝ニ柔南南ニ到
リ蓋シ回南ハ大沽口外ニ夜泊セリ聞ノ七日早朝朝鮮ニ向テ出帆セリト然ル此日東南東ノ強風
吹キシヲ以テ大ニ其航程ヲ阻礙セリナリ

海定ハ六日塘沽ニ到着積荷ヲ卸シ在炭ヲ積ミ畢リ七日上午四時頃山海關ニ向テ出帆ス
今由出帆事件ニ就テ往復セリ電文ヲ其節ヨリ得タ譯述シテ呈ス前後ノ關係ヲ
見テ其違動ヲ知ルヲ得ヘシ

山海關葉提督宛

六日午前八時天津発

貴提督ノ領收スル軍器及彈ハ昨從海軍ニ積載シ今午前三時山海關ニ到リ茲ニ又收所

大本營

(五十一) 今當分海定所ニテ轉送ス下提督ノ電報ヨリハ海軍操練ニ事務外ノ護殿楊ノシ濟
遠揚殿ヲ遠三艦ヲ率テ伺ハ赴キ共ニ進勤セリト

下提督宛

(七廿八)

統領馬士成ハ南南ニ搭シ出帆セリ數公使ハ公明ニ赴キ出防セリ然レハ意アリ護殿楊ヲシテ
往キテ見セリ得テ致ハ護隊ヲ援救セ振ヲ易ヘテ前住セリ明確ニ事實ヲ探問シ報道スル事
也之ヲ對酌處理セテ葉提督ヨリ末電ハ彼地ニ至テ護殿楊ニ面晤シ一切事ヲ商辦スル

葉提督ヨリ海關道盛宣懷宛

八月着

本署ハ海軍ノ年々三時解纜旅順ニテ水ヲ積ミ直ニ朝鮮ニ赴クニ手細ハ後使海定ハ兵員搭
載ヲ率リ以テ出帆スルニ本提督ニ申シ其台ノ千嬰女ヲシテ歩隊三百名ヲ總兵夏青雲
リ馬隊五十名ヲ帶テ南南ニ附乗シ朝鮮ニ出ルセリト

一説ハ塘沽ヨリ兵八百人山海関ヨリ千二百人ヲ發載セリト此ニ定際目撃シ人ノ語ニ信ス山海
関ニ到着セシ後大風ハ阻礙セラシ電文ハ如ク午三時ニ延引セシト葉提督又馬隊孤處ニ付
軍馬三百頭ヲ積載シトノ説アリ而シテ回南ノ上甲板ハ全餘額ヲ發載セシ外海軍中隊

大本營

兵甲板と強し馬ヲ牽ん、餘地ヲ耳ヲ棧橋高キカ為メ船中ニ積載スル能ハス又埠頭ニ於テ
採掘スル三百頭ノ馬ヲ家載せん痕跡更ニナシ

大本營

報章(外)B 明治三十七年六月十日

○清兵朝鮮に派遣の始末 中華田軍令部長元 井上陸軍大佐

五月末朝鮮國王、請ニヨリ清國ハ軍隊ヲ派遣シ其内亂ヲ戡定スル
ト、囑區々ナリシヲ以テ其筋ノ者ニ探問セシモ該事件ニ就テハ未ダ毫
モ未ダ聞知スル所ナキカ如シ

六日冒皇皇子直隸提督葉志超ハ統領氏毅軍副中營全老前
圖南海定ノ函船ニ裝載シ日ヲ知シテ出發スベク之ガ需用ノ軍器及彈ヲ軍
械所ヨリ支給スベトノ報ヲ得タリ

五日蘆台口ニ於テハ愈々明六日葉提督聶統領氏毅軍副中營全老前
營(老前營ハ砲隊ヲ含有シ野砲八門山砲六門)古北練軍右營ヲ率テ朝鮮ニ

向テ出發スルハトナリ當日營中ノ靜肅ナルヲ平常ニ異ナラズ唯三々五々兵士群
出征ノ談ヲスルノ間ノ別ニ糧食等ノ準備ヲ見テ而シテ軍械所ヨリ氏毅軍及
正定練軍駐山海關ニ支給セシ武器及彈ハ左ノ如シ

軍用製造局
製造品目
三十顆
銃力

赤穀軍

南京製造局製二所後山砲

鐵架二輪砲車

南京製造局製二所後裝砲被鉤
通常榴彈

南京製造局製二所後裝砲被鉤
堅鉄榴彈

南京製造局製銅製信管

二所後裝砲鉤被彈

製造局製兼外國製六ツス銃彈

ウインチェスト十三連發騎兵銃

製造局製ウインチェスト騎兵銃彈

英國製五リ一六連發拳銃彈

藍色天幕

藍色二重天幕

四尊 計四箱

四輛 附屬具

六百顆 計六件全
計八箱

二百顆 計八箱

二千枝 計二箱

二百顆 計二百箱

二十顆 計二箱

三十顆 計二箱

一百粒 計五箱

五千粒 計一箱

二架 計二件

十六架 計八件

白色單天幕

八十架 計四十件

大銅鍋

四十口 計四包

以上共裝三百二十六箱件派委差弁陳金祥押解塘沽點交
圖南輪船

正定練軍

制名造局製ウレチスト銃彈

四萬粒 計二十箱

八冊七克白砲銅箍通常榴彈

百二十顆 計六件全

八冊七克白砲銅箍通常榴彈

百二十顆 計六件全

八冊七克白砲銅箍榴散彈

百六十顆 計六件全

八冊七克白砲彈用銅製摩打機管

五百枝 計裝二箱

南京製造局製十二所漢式火箭

二百枝 計裝三箱

南京製造局製十二所火箭

二百枝 計裝三箱

藍色天幕

三架 計三件

藍色二重天幕

十八架 計九件

白色單天幕

八十八架 計四十三件

製造局配裝外國哈乞開司機子

三十萬粒 計裝三百箱

以上共裝四百六十三箱并派委學弁吳鼎元押解塘沽運上海晏
輪船運解榆關交收

海晏八五日塘沽ニ着以上正定練軍ニ屬スル兵器及彈ヲ裝載シ六日午
前三時山海關ニ向テ出帆ス

茅台氏毅軍副中營全老前營古北口練軍右營兵凡八百人許リ
副中營練軍後營ハ哨兵八十人宛ヲ撥授シ各三百人許
老前營古北口練軍前營兵凡八百人許
着ニ開平礦務局埠頭ニ嚴密泊セシ圖南ニ午前後兩回ニ分テ裝組ム一回
三十分餘ヲ費スニ過キズ是ヨリ先チ裝具八十餘頭ハ已ニ圖南ニ裝載セリ
四時三十分滿潮ニ乘シ解纜ス統領目睹シ成ハ年後五時強汽車ニ着示小
蒸氣ニ乘シ圖南ニ赴ク蓋シ圖南ハ大沽口外ニ碇泊セシナリ開ク七日早朝

朝鮮ニ向ヒ出帆セリト然ル此日東南東ノ強風吹キシヲ以テ大ニ其航程ヲ
阻碍セシナラン

海定ハ六日塘沽ニ到着積荷ヲ卸シ石炭ヲ積ミ畢リ七日午前四時頃山
海関ニ向テ出帆ス

今回出兵事件ニ就テ往復セル電文ヲ其筋ヨリ得タリ左ニ譯述シテ呈ス前
後ノ關連ヲ見テ其運動ヲ知ルヲ得ベシ

山海関葉提督宛

六日午前八時天津發

貴提督ノ領收スベキ軍器及彈ハ昨夜海晏ニ積載シ今年前三時山海関
ニ赴リ茲ニ又帳房(トシ)一全營分ヲ海定ニ附シテ轉送ス丁提督ノ電報ヲ
レハ海軍操練營務処ノ龍殿楊ヲシテ消遠楊咸平遠三艦ヲ率ヒ仁川ニ
赴キ共ニ巡勤セシムト

丁提督宛

(七日入手)

統領肅士成ハ團南ヲ搭シ出帆セリ袁公使ハ公州ニ赴キ出防セシト欲スルノ

意アリ龍殿揚リシテ往キテ一見セシムルヲ得ベキ或ハ銃隊ヲ撰技シ服シ易
ヘテ前往セシメ明確ニ事實ヲ探問シ報道スルハ更ニ收之ヲ斟酌處理セヨ葉
提督ヨリノ來電ニ彼地ニ重テ龍殿揚ニ面晤シ一切ノ事ヲ商辦スベシト

京城袁公使宛

(八日入手)
是ニ應ジテ旨ノ商文

連ニ仁川ノ清遠號ニ至リ龍殿揚ハ昨清遠揚威平遠ノ三艦ヲ率テ仁川
ニ赴ケリ葉提督ニ告知シタルニ朝鮮ニ至リテ面晤ノ上商辦スベシトノ返
電アリ今提督ハ海晏海定ニテ今晚カ明朝解纜牙山ニ赴リ龍殿揚ハ
前往貴公使葉提督ト面晤密談協議ノ上機ヲ見テ計ラベシ

葉提督ヨリ津海關道盛宣懷宛

八日着

本官ハ海晏ニ乘シ午後二時解纜旅順ニテ水ヲ積ミ直ニ朝鮮ニ赴クベシ
素細ハ後便海定ハ兵員搭載ヲ畢リ次ヲ出帆スベシ李提督ニ上申シ
台ノ下翼長ヲシテ安隊二百五十名ト銃兵員青雲ヲシテ直帶五十名ヲ帶
ヒ圖南ニ附乘シ朝鮮ニ派出セシムルニタシ

一説ニ塘沽ヨリ兵八百人山海関ヨリ千二百人ヲ装載シタル而シテ實際
目撃シタル人ノ語ニヨレバ山海関ヨリ兵八百人砲八門ヲ積ミ七日午前
時出帆セリト而シテ海晏ハ六日海定ハ七日ニ於テ山海関ニ到着セシ筈ナリ
彼大風ニ阻碍セラレ電文ハ如ク午後二時ニ送引セシモノト察セラレ又馬隊
派遣ニ付軍馬三百頭ヲ積載セシト説アリ而シテ圖南ノ上甲板ハ八十
餘頭ヲ装載セル外海晏海定ハ甲板上殆ト馬ヲ容ル餘地ナク直棧
橋高キが爲メ艀中ニ積載スル能ハス又埠頭ニ於テ探問スルモ三百頭軍
馬ヲ装載セシ痕迹更ニナシ

袁公使ヨリ津海關道盛宛

八日着

韓匪ハ大兵ヲ来ルヲ聞キ落膽勢日ニ促迫セリ惟タ日本兵ヲ派シ相制ス
其勢賊徒ヨリモ甚ダレ已ニ電報ヲ以テ圖南ニ積載兵員ノ下陸ヲ罪ムハ
直ニ面航スベキヲ命シタリ

京城來電津海關道盛宛

九日着

朝鮮電報局、未電ニ披ヒ昨日招討使大戦勝ヲ得巨魁金順明十
四歳壯童李福龍ヲ斬リ全順斗ヲ傷ケ全州日ヲ指シテ恢復スベシ今回事
件素ト地方官、廢制ニヨリ蜂起シタルモノアレバ早ク慰撫解散スル所此
ノ如キ決裂ニ至ラザリシヲ今テ大軍將ニ至ラシテ賊勢日ニ挫ケ功ナ
クシテ空シク回ルハ實ニ徒勞ナリ然レモ功ヲ貪ルル者、鉄ト無差事ニ及ボサン
ト多ク恐ル且日魯ノ兵モ將ニ至ラシテ聞ク少シク憤マザルハ他變ヲ生シ客
易ニ局ヲ錯ビ難カラシムル所也

差出人森(未詳)

(昨日入手)

京城ヨリ牙山ノ葉提督ニ轉送セシ公文

韓匪將ニ散セントシテ日本兵至ル依テ韓王ハ吾兵ヲ深入スルヲ願ハズ素總
督ハ貴軍ヲシテ暫ク牙山ニ駐シ後令ヲ俟タシメ以テ深入スルノ意ヲ免セントス
戰ヲ交エザルモ已ニ人心ヲ安シタリ丁提督ハ操江号ヲ以テ仁川牙山間ヲ往復
シメ緊要ノ公文ヲ運送セシメントス消息瞬間ナルヲ得シ步隊ヲ添派スルハ
暫時相扣エ馬ハ國南ヲ俟ツテ裝載スベシ 差出人宜(盛宣懷カ)

京城來公使家

九日癸

日本兵ハ口ヲ商民保護ニ藉ル相ハ(李傳相カ未詳)只通商港ニ駐セ
ンヲ囑シタレモ未タ如何ヲ知ラズ(李傳相カ未詳)只通商港ニ駐セ
制意アリ朝鮮ハ洪勝利ヲ得タルニヨリ我兵ハ深入スルヲ願ハサルモ、如シ李
總督ノ意モ葉提督ノ軍ヲシテ暫ク牙山ニ駐シ後信ヲ俟タシメントス閣下ハ葉
提督ト電商シ深入セシムベカラズ鋒ノ交エベキナキモ已ニ人心ヲ安セリ圖南想
フニ已ニ牙山ニ到着セシラン海晏ハ十日頃着スベレト提督ハ操江ヨリ仁牙間
ヲ往復シ緊要ノ公文ヲ遞送セシメントス朝鮮ノ電信只公州ニ到ルガ如シ公州牙
山間ハ迅速シ同スルヤ否

朝鮮電報云シ

徐相喬送來

(九日入寺)

六日午後四時(九日京城來)招討使洪、報スル所ニ拠ルハ董完府ニ於テ接戰巨魁
全祿斗金順明李福龍等ヲ斬リ前後一千二百人ヲ捕獲シテ日期ニ城ヲ
恢復スベシ最早慮ルニ足ラズ中朝派兵ノ一方ニ感謝スル所軍艦ハ想テ未タ

到着セズ然レモ今面勝利ハ実ニ請援アルニヨリ軍艦到ラハ牙山ニ泊スベシ牙
山宛府ニ至ル九ノ百里若シ大兵行軍スルハ地方民情動揺ヲ致サシ憂フ
右報告仕テ也

報忠(45)^B 明治三十七年六月十日

清兵朝鮮に派遣、始末 中軍田海軍の各部長官 在上海軍文佐

京城來電津海關道盛家 九日着 差出人凱(袁世凱)

李傅相訓令委細敬承直ニ肅統領ニ暫時駐在待命、首日發電ニ
リ朝鮮政府ハ多分日本兵ニ未だ阻ムモ未だ其成否ヲ知ラズ、圖南ハ昨
晚刻着依リ帰航シ、囑シタリ朝鮮ノ電報ハ現今成歡集並架設ニ牙山ヲ
距ル五十里、俱間郵遞ヲ設ク

京城來電津海關道盛家 九日着 差出人森(未詳)

目下日本公使大島ハ兵三百人ヲ帶ヒテ京城ニ進マントス又稅關吏ノ言、批
レ尚ホ金山ヨリ上陸セシ兵ヲトモクハ確實ナラス電報ノ阻碍ニヨリ確信
ナシ

肅統領ヨリ來電 十日着

八日夕牙山海口ニ抵ル民船ヲ轉送シ行ク、四十里翌朝上陸牙山縣ニ入

ル隊伍輜重等々分駐ス聞ク賊ハ西州會城垣ニ蟻集ル堅固ナリ
ト牙山ヲ距ル三百里葉提督ノ來會ヲ待ケ面談、後進軍セントシタル處
袁公使ヨリ電報ニ接シ相(李傅相)ヨリ暫時駐在後令ヲ待ケ進退
スベシト訓令シテ承セリ行軍ハ民心ヲ得ルヲ以テ主トナヌカ故ニ上陸ノ後
ハ韓民ヲ安撫シ軍器運搬ニモ耕牛ヲ用ヒス船舶人文葛藤等類モ
皆其價ヲ支拂ヒ并ニ人ヲ前路ニ派シ告示ヲ出シ一切安堵スベキ旨ヲ勸諭
セリ

右報告仕込也

軍一

(48)
(45)_B

明治二十七年六月二十日

○清國出兵

一六月二十日午後七時五十八分天津荒川領事より陸奥外務大臣宛
李鴻章ハ近日更ニ多數ノ兵ヲ朝鮮ニ派遣スルニ決シタヘカ此李
ノ出師準備ハ極メテ秘密ニ屬スルヲ以テ本官より迅速ニ確報スルニ難
カレ可シ

大本營

軍二 (48) (45) B

明治三十七年六月二十二日

○清國、出兵

六月二十三日午後一時十分發天津荒川領事より外務大臣宛

李鴻章ハ頻ニ出師ノ準備ヲ為シ居ルカ如シ

六月二十二日午後兵員三百馬七十頭大津より牙山ニ向テ發ス

近日、内尚ホ五ノ兵員派遣セラレ可キ模様アリ

大本營

軍二 (4分) (八)

明治二十七年六月二十二日

○清國ノ出兵

一六月二十三日午後一時十分發天津荒川領事より外務大臣宛

李鴻章ハ頻ニ出師ノ準備ヲ為シ居ンカ也

六月二十二日午後兵員三百馬七十頭大沽より牙山へ向テ發シタリ

近日ノ内訌ハ五午ノ兵員派遣セラル可キ模様アリ

大本營

軍二(4)B

明治三十七年六月二十二日

○清國出兵準備

一六月二十二日午後五時三十分芝罘發井上少佐より軍令部長宛
旅順口芝罘其他各營出征準備を展し

大木 啓

電

(45)
B

六月廿三日

○清國ノ出師準備

天津

荒川領事

李鴻章ハ頻リニ出師ノ準備ヲナシ居ルカ如シ

大本營

電 令

(45)^B

六月廿三日

○清國出師準備

芝罘

井上少佐

旅順口芝罘其他各營出征準備ナシラレリ

大本營

報載(45)^B

明治廿年六月廿七日

○清兵派遣件

中華軍令部長宛

在東京

井上清軍文佐

清兵派遣件

前報より報告せる如く盛軍重隊出発暫時延引せりト、諒聞せラル以テ人々小站ニ特派シ實際ヲ偵察セシムルニ去ル廿三日ニ於テ盛軍十二營(豫省)ヨリ二百四十(砲)ヲ派シ彈藥ヲ運搬スルヲ領セシメ廿四日ニ旗幟帳幕ヲ河岸ニ羅列シ新城ニ屯集シ改船海晏号(九百六十)北平号(三百廿)三隻ヲ備ヘ余ヲ待テ將ニ出発セシト準備全ク整頓ス山砲ハ携帶スルモ其數ヲ知ル能ハス(一説ニ山砲ハ携帶不便ナルヲ)携帶小銃ハポチキス(六連)発ヤリト云フ其後聞ク処ニヨレハ一昨廿五日ニ於テ金軍大沽ヲ発シタリト事ナレハ未ダ確報ヲ得ス

一聞リ処ニヨレハ北京政府ハ兵ヲ動かスヲ欲セス其旨上諭アリタリト又李帥ニ付某外國人ヨリ傳承スル処ニヨレハ始メ左程ニモナキ内訌ヲ事ニシテ言立テ派兵ヲ請

求ナセシ素ナルモノ不都合ナリ之ヲ信シテ妄ニ兵ヲ動カシ騷亂何事モナ
シ乎ウキタルニ却テ外國トノ交涉ヲ引起シタル此レ李鴻章ノ罪ナリトテ北京
政府甚シク素鴻章ヲ責メ李鴻章ハ板板ニ據ヒ近來ハ吏カ虐カ
喜怒常ナラスト云フ亦タ曰ク李鴻章ハ最初主戰説ヲ北京政府ニ提出
シタルヲ入レシサリト云フ確ニ再ヒ上奏シタリト云フアレモ未タ詳ナラズ北京政府ハ
開戦ヲ願ハス偏ニ平和主義ナランモノ如モト此説信スヘキカ如シ
前文李鴻章ハ上奏及ヒ之ニ附シテ上諭アルナラント目下特別ニ重利ヲ賄ヒ
テ引出ナリ此書ヲ得レハ凡ソ清國ノ方向決心ヲ知ル足ラシ

電報

張士珩宛

六月廿三日發

聶士成

近日教匪未タ尽ク平カス已ニ小隊ヲ派シテ首魁ヲ搜捕セシムルトセリ惟日本
ヨリ陸續派遣セシ兵九千人軍艦九隻仁川ヨリ京城ニ至ルマデ嚴重ニ布
置シ并ニ京城ニ軍營砲台ヲ修理セシ後ハ韓王恐ルハ甚ク頃ハ袁公

使ノ電報ニヨリハ明日日本公使韓王ニ謁見ヲ請ヒタルハラスニテ素ノ要求
アルハ韓王ニハ堅持セシメテ囑ヒタル其胆ヲ即リルハ大兵ナケレハ能ク堅持
シ得ルヤ否ヤヲ知ラス適ハ葉提督ノ所ニテ傳相(李鴻章)ヨリノ來電ヲ見タル
ニ芦台山海關兩地ヨリ兵三百七十匹并ニ水雷地雷等ヲ送ルノ報アリ類
リニ葉提督ニ電報ヲ以テ差止メラレ度旨ヲ申請シテ理由ハ日本ト談判
モ未タ局ヲ繕ハス若シ愈々談判破裂セハ我水陸ノ大兵ヲ調發スルニ名正
ノ言順ナレモ今僅ニ三百許ノ兵ヲ派遣スルモ事ニ益ナキニテナラヌ却テ日本ニ
口實ヲ與フルナリ以上愚見ニ就テ貴慮如何

聶士成家

六月廿三日午後二時發

張士珩

書信及電報ニテ委細ノ情形承知其旨代達(李鴻章)ニテリ談判未タ定
ラサルニハ隊ヲ添發スルハ益ナシトノ貴說卓見ナリ玆亦深ク水雷馬匹等
ノ現ニ益ナキヲ知ル然ハ葉軍門ノ來電催促ニヨリ海定ニ馬百匹人四百名藏
セ廿二日午後五時塘沽ヨリ牙山ニ出帆セリ三更ノ頃葉軍門ヨリ差止メ電報アリ

リタレ已ニ及ハス牙山ノ荷船ハ幾隻アリヤ補ホ添雇ニ易キヤ葉軍門ニ告ケ
テ連ニ準備シ詳示アラント明云

宛名詳ナラス

六月廿五日正午

葉志超

廿日亥電ニ通了取ス餘匪未ス平カガルニヨリ現ニ肅武成ヲ派シ軍隊ヲ率
ヒテ前進シ討伐安撫兼行スルトセリ日本兵日々増加シ砲台ヲ築キ營
壘ヲ造リ京城仁の間ニ分布シ要害ヲ扼シ主客地ヲ易ヘ種々朝鮮ヲ侮
リ勢ノ跨張甚タレ人ヲシテ憤然忍ブ能ハサラシム

左報告仕也

軍二

(48)
(45) B

明治二十七年六月二十七日

○清國出兵

一六月二十七日午後十一時十五分發天津神尾少佐より参謀本部宛

盛軍軍ハ直リ出發シ得ハ様準備シアリ併ハ船準備ナシ要スルハ

勢サシノ様ケルカ如シ

大本營

報載(分)B

明治廿七年六月廿七日

在芝罘

●清兵派遣ノ件

中牟田海軍々令部長宛

井上海軍少佐

一昨廿七日人ヨリ小站ニ派遣ニ親察セシメタルニ左ノ報ヲ得タリ

一盛軍ノ各隊新城ヨリ棄船セントシ出發準備全ク整正フ

一每營ヨリ五割ヲ調査シ尚ホ各營ヨリ八十人ヲ増弁ス

十二營、五割即チ三十人毎
營ヨリ増加ハ十人合計三十二人

九百六十人即チ
九十四人

但ニ親善小隊一營ノミハ全營ヲ調査ス

一新軍砲隊ハ歩兵ニ改ム

一馬廠ニ在駐兵五營ハ今調査中ニテアルモ後更ニ待ツテ出發スベシ準備ス

備ス

盛軍營名及管帶官ノ姓ハ左ノ如シ

左軍正營

管帶張

右營

管帶賈

同 新軍		隊列中軍		同帶孫	
以上左軍三營					
右軍正營				管帶衛	
〃	右營	〃	張		
〃	左營	〃	郭		
以上右軍三營		隊列先鋒			
中軍正營				管帶周	
〃	右營	〃	鄭		
〃	後營	〃	陳		
〃	前營	〃	李		
〃	副營	〃	周		
盛字正營					
以上中軍六營		隊列後陣		〃 周	

親兵營

一營

馬山隊
安山隊

親兵營ハ後軍ニ在ッテ諸隊ヲ督率ス

一諸隊、上陸地ハ牙山ナルカ如シ

一諸隊、出発ハ二十五日ノ夜ナリシカ、兩三日ヲ延期シタリ出発期日未ダ確定

セハ

一衛統領ハ將士、不人望ヨリ、^管帶官ヲシテ全隊ヲ指揮シ去ラシムトアル盛軍、

兵士ハ朝鮮行ヲ欲セス逃亡セントスルモノ多シトアル此等説尽ク信スヘカサル

モ軍隊ノ不和軍氣、張ラサルハ確カナルモノ如シ

一旅順及威海衛、警戒益々嚴重兩港碇泊軍艦ハ多シ(六月廿八日調査)

(旅順) 靖遠、致遠、鎮中、帆龍敏捷、

(威海) 定遠、來遠、經遠、廣乙、利運、鎮遠、

(大沽) 康濟

一在朝鮮艦隊前報告、如シ

一威遠號ノ出帆先キ未タ詳ナラス

一大連湾駐在ノ各營出兵準備ヨナセリ

一糧食品ハ芝罘ヨリ石炭ハ大沽ヨリ日々威海ニ輸送ス

電報云シ

張士珩宛

朝鮮ヨリ來電

發信人詳ナラズ

日本ハ朝鮮ヲ略取スルニ非ラサレハ可カラズ昨日議セシ所ノ三事如何ニ爲リ終ヒ
シヤ知ラス

葉志超

六月廿五日二時發

張士珩

廿五日正午發電了悉ス日本兵狂暴ニシテ朝鮮政府ノ惶惑定見ナク人ヲ
シテ憤懣セシハ遠海ニ懸軍シ勢ニ困難ノ極傳相(李鴻章)ニ尊意ヲ述ヘル
處三路ニ進軍(三路未詳)駐在セシハ極メテ宜シ總理衙門ハ各國公使ノ兵
士ヲ添派スヘカラストノ勸告ニ度リ難キトナレハ猶ホ注意兵士ヲ撫循シテ堅
忍令リ待タルベシ貴國士成ノ餘匪ヲ進搜セシハ正當ナリ想フニ下士卒ニ及シ

巨魁教人ヲ罰スノミシテ脅從ノモノヲ虐待スルヲナカラン又傳相ハ金城
ノ兵亂ヲ掠ニ罹リ非常ノ慘狀ヲ隔テ觀ル憫然ノトシ查明ノ上稍賑恤ヲ
ナシ國家カ小國ヲ惠育スル仁政ヲ布カハセモ休ヲ得タルモノトナス貴意如何

右報告仕度也

[illegible]

人 本 必

1610

離

(45)

自廿七年六月廿六日
至同 七月七日

○清國出師準備

南田秀松宛

堀 虎吉

六月廿八日以後、情況

日本軍艦ハ撤回セシト聞ク盛字軍ハ期日未定ナリ昨日水
師用トシテ兵器彈藥ヲ鎮海利運ニ二隻ニ積載シ鎮海ハ旅順ニ
利運ハ威海ニ至リ丁汝昌ニ交付シ教ニ照シテ領收セシム

大木

敬

報臺(45)^B 明治廿七年六月廿九日

上海派遣員報告第三

六月廿九日午後十一時認

一昨朝南京、總督ヨリ當江南機務局總辦ニ家ヲ吳淞ニアル南琛艦
隊、各艦ニ兵器需品等ヲ供給シテ出艦準備ヲナスヘキ旨申来リ(電報
ニテ)タル由聞知後、存探問仕、今朝保民號ヲ談、總督劉坤一南
京ヨリ吳淞ニ来、着シ江南機務局劉麒麟ト共議シ劉坤一吳淞營
内ニ於テ浙兵ヲ(折江)調練シ兼テ同處ニ在艦隊ヲ檢閲シ以テ何時ニテモ
出師ニ差支ナキ、準備ヲナス積ノヨシ又劉麒麟機務局ヨリ軍需供給
ヲ擔任シ兼テ全處ニアル兵營、閱兵ヲナスヨシ信ナルカ如シ依テ明日ハ江
南ニモ人ヲ遣シ又自身吳淞ニ下リ艦隊ヲ參觀等ヲ便宜スルヲ考ナリ
一招商局商船ハ戰時トナラハ前、清佛事件ノ中、例ニヨリ他國旗ノ下
ニ属スル考ニ此度、地利要、集商會、所有船トスル考ニ已ニ頃
數綱目等、取調ヲ整備シ何時ニテモ引渡ヲナシ得ヘキ様手順

ヨナニタリ

右報告仕舞

ナ
タ
タ

1613

報載(45) B

明治廿七年六月三十日

旅順港の近状

中東海軍の令部長官 井上陸軍大佐

旅順港の近状

旅順に派遣シタル偵察者今朝歸來シ左ノ如キ報告ヲ得タリ

一旅順港大連湾ノ警備頗ル嚴重清國軍艦及運送船他一切船舶出

入ヲ禁シタル以外他港ト交通甚ム不便ナリ

一在港船舶ハ靖遠、致遠、海鏡及敏捷四艦ノミ

一致遠ノ修理昨日落成不日威海ニ回航スベシ靖遠ハ來ル七月七八日頃ニ

アラサレハ竣工セサルヘシトナフ

一海鏡號ハ入渠中ニテ類リニ工事ヲ急キ今後一週日ヲ期シテ落成セシム

ル豫定ナリトナフ

一水雷艦六艘モ在港セリ

一攻撃部ニ於テハ東形水雷ノ用意頗リナリ

一布設部ニ於テハ水雷布設ノ準備ヲナスヲ見ス

一造船場ハ一時夜業ヲナシタリシモ頃日平常ニ
(平常就業時間ハ八時間
乃至十時間ト寛ユ)

復シ各職工ハ午前六時出場午後六時退場ス

一職工全固ノ事件ノ爲メ別ニ増員シタリト説ヲ聞カズ

一製罐場於テハ水雷罐ノ製造頻リナリ

一各砲台ハ特ニ彈藥ヲ準備シ警戒益々嚴重

一旅順駐在兵内渡韓準備ヲ爲シ居ル者ハ左ハ八營ナリ

親護軍

四營

毅軍

四營

一大連虜駐在ノ鎗字軍ヨリハ三營渡韓準備ヲナシ居リ

一右十營共準備全ク整ヒ待命ナリ

右報告仕矣ヤ

軍二(4)^B

明治二十七年七月二日

○清兵出發ノ準備

一七月二日午前九時十分發天津神尾少佐より參謀本部宛
盛字軍ハ未夕出發セ又直ク出發シ得ル準備シカヘシ

大本營

電臺

(45)_B

七月二日

○盛字軍ノ準備

天津 神尾少佐

盛字軍ハ未タ出發セズ直グ出發シ得ル如ク準備シアルニ

大本營

電 臺

(48)

(45)

七月三日

○盛字軍出發期

天津

神尾少佐

盛字軍ハ一二日内ニハ出發スヘシ

大本營

1618

軍二(48)
(45) B

明治二十七年七月五日

○清國ノ出兵

一七月五日午後八時發天津神尾少佐等參謀本部宛

盛宇軍ハ荷物ヲ乘船場へ運ビタリト拘ラス未タ出發ノ模様ナ

大木 啓

軍三
(45)
B

明治二十七年七月十二日

○清艦ノ戦闘準備

一七月十二日午後九時三十九分發上海黑井大尉

各艦航海戦闘用意ニシタ

大本營

報載(48) 明治廿七年七月十三日

上海派遣員報告

一此二兩日事狀頗ハ切迫セシニヨリ注意スヘキ旨ハ要井上少佐ヨリ報來矣、
付猶念、度々自身ニテ吳淞ニ至リ南洋艦隊ノ舉動ヲ偵察仕テ其結果然
全所ニ在泊各艦ハ皆一昨十日ヨリ昨午前ニカテ戦闘準備ヲナシ兼テ航海
用意ヲ致シ矣南洋艦隊ニ取テハ實ニ局面ニ變ト申矣、モ可ナルヘキカ現ニ
僅カ數日前マテ平常ノ狀態ニアリシモノ俄カニ諸準備ヲナシ積入物ヲ十分ニス
ル等非常ノ奮發ニテ現ニ昨十二日午後四時吳淞行ノ小蒸汽船便ニテモ南琛、
鎮清等ノ各貨上海ヨリ糧ヲ軍需品ヲ吳淞ニ送り鎮清ニハ江南機局ヨ
リ受取タル十三冊乃至廿一冊ニ對スル彈藥、糧、丸、四十個其他軍需品數多
ヲ轉載スルヲ目撃シタリ

此ク彈藥糧杯ヲ急載スルヨリシテ考フレハ各艦ノ準備ハ單ニ航海ノ準
備ニカラスシテ戦闘ノ用意ヲナセシヲ疑フヘキニアラス又吃水ノ如キモ前

日自カラ目撃セル所ニ比スレハ大ニ変シ又ハ水線下半呎乃至八九インチヲ顕スニ
過キサルニ至リタレハ以テソノ積込ノ實際ヲ推測スルニ足ル

一右舷ノ戦闘準備ニハ第一南琛ニテハ三トツクマスト

(トツクマスト及ゲルマスト)
連続ノ杆ナリ

共ニロワーケツプ上ニローヤルトラシノ凡ソ六呎程出ル如クヌトライタシクナリ
カシガフハ其終ニシロ只メインガフモ下シヤードハフォールヤードニ一本ヲ存スル
ノミ帆類ハ縦横帆共ニ單片ダモ用意セス諸動索ヲ按テ静索ノ運動スル
モノハス子ノキダウニスル等支那艦船ノ戦闘準備トモハ實ニ出来過キタル
位ノ觀アリ南琛ハミズンマストニ先任旗ヲ翻スボースフリットハ其終ニシロ單ニ
シブブームノミ半ハ引入レタルノミ南琛ハ右ノ如ク用意シタル上猶「スモークガバ」
ヲ用意シタレリ砲具ニ關シテハ別ニ何等ノ準備ナシ唯砲門ヲ全開シヤ
ルニ

開濟鏡清共ニ同様ノ準備ヲナス則チガフハ單ニ「スパンカル」ガフヲ残シヤ
ードハ無帆ヲフォールヤードニシブブーム半引入等ニテ他ハ南琛ニ同シ吃水ハ

矢張水線下六七イシテシテ^位シテシテ

前報ニ申述シ如ク南瑞、雲霧、兩艦ハ已ニ通州近海、巡航ニ出掛タルヲ以
テ殘留ス三艦ノミ戰鬪準備ヲナセルナリ蚊砲艦ハ一隻殘留スルノミニ
シテ他ハ長江各地ニ分派セリ此等ノ蚊砲艦ハ別ニ戰鬪準備ヲナサズ
一昨日致遠(招商局汽船)号ニテ多量ノ無煙火薬、小銃、砲彈等積込
果ヘ向テ發艦ヲタシル由本日ニ至リ確カナル所ヨリ聞取ルノミナラス右關
スル保險金額並明細ニ相分リ矣モノカウ鬼モ角モ芝罘ニ於テ荷揚ノ中ニ
注目セハ相分ラント存シ早速井上少佐ヘモ送電仕ル小生、考ニテハ江
南ノ機密局ヨリ發送スルモノナラハ左迄多量ノモノ有之リ理モ無之又保
險金額、如キモ余リニ多量ニ有之矣モノカウ聊カ疑念ヲ懷キハ其他
事トハ異ナリ特ニ注意ヲ要シハノミナラス又現ニ昨午后ニ時頃小生、招商
局棧橋ニ於テ談話ヲ自聲然ハ節ハ已ニ積込ヲ終リタル后ニラモアルニ別
ニ荷物揚卸、模様モ無之カリシニタ刻ニ至リ別ニ例則、郵便物ヲモ搭載

セスモテ出帆致ハ等ノ事實ヨリ考フレハ決シテ尋常ノ航海ニハ無ニ様ト
存中ハ何レ其中芝罘ヨリ本部へ向トカ通報有ニテ我ト存
一前報ト些ト衝突致ハ様ニテ共之レモ稍信スヘギ支那人ノ語ニヨリ元ノ二付
參考迄ニ申上リソハ昨夜遅クナリテ天津ヨリ招商局ヘ來電ナルヨシ
電報ニ曰ク招商局ニテ一時「チャーター」(傭入)シテ北方ヘ送りオリタル外國
船ハ暫時見合ハスベシ云々ト

報載(明)明治廿七年七月十六日

在莒票

北洋沿岸ニ於ケル近状

井上海軍少佐

目下北洋沿岸ニ於テハ前報ト致テ果ナルヲナク切リニ準備中ナルモ未
タ増兵増艦等ノ状況ナシ今其概略ヲ左ニ記シ決テ参考ニ供ス

一招商局汽船致遠号ハ小銃及同業包ヲ積載シ去ル十三日午前上海ヲ發
シ今朝當港ニ着シ當港ニ碇泊シ在リシ康濟号ヲ轉載シ致遠号ハ天
津ニ康濟号ハ威海ニ向テ移籍セリ輸送シ来リタル小銃及同業包ノ多少
ハ目下探聞中

一天津軍械局ヨリ小銃駐在盛字軍ニ増給セシ小銃左ノ如シ

ウエシチエスカー十三連発騎銃

百挺

ウエフリエー

拳銃

百挺

同

彈

一万発

一天津東機噐局ハ頃日夜業ニ着手セリト云フ職工増員者無及製造

品、如何等詳細に探聞中

一 李鴻章ハ天津練軍兵七百人、護衛營兵ヨリ二百人、親兵前營

兵ヨリ三百人合計一千二百人、天津此ノ外統領吳育仁ヨリテ通永練

軍北塘駐札兵ヨリ一千五百人ヲ撥技シ前後二千七百人ヲシテ朝鮮

應援ノ爲メ調発スルヲ豫告シタリ但シ出發ノ期日未定

一 馬廠駐在ノ各營ハ每營二千八百兩、九百四十支給シ馬ヲ購入シ車輛ヲ

造ルノ費ニ充テ每營ニ馬八十匹車十五輛ヲ増加スル旨ニテ現今類ノ

大車及一輪車製造中但シ来ル三十日ヲテニ尽ク其準備ヲ畢ルヲ豫定

一 本月々末ニ至リ補調和ノ望ミナキ中ハ斷然出奔シハ新城ヨリ汽船ヲ

大連灣ニ渡リ陸行朝鮮ニテハ山海關ヲ經テ陸路進軍スヘシトノ説

アルを信スルニ足ラス

一 去ル十四日李鴻章ヨリ芝罘道台ニ電報アリ云ク

添兵費トシテ芝罘海關ヨリ銀三万兩ヲ天津ニ急送スベシ

當地海關ヨリ直ニ該銀ヲ天津ニ輸送シタリ想フニ各港海關ニ分割徴
集シタルナリ其總額ハ目下探聞中

一 本月五日以來當港ニ碇泊セル十二日より点火シアリシ砲艦鎮紐号ハ昨
夜深受電報ニ接シ威海ニ向テ移錨ス故ニ本日當港碇泊ノ砲艦ハ
飛虎號一艘ノミニシテ該艦ハ尙ホ未タ消火セズ

一 別紙北洋艦隊各艦船備付量形水雷艇ハ管理軍械守備部御ヨリ
得タルモノナリト英公使清冊ヲ見タルニアラサレハ近年ノ調査ナルヤ否
ヤ詳ナラス猶ホ探問ノ上再ヒ確報スベシ

一 清國ノ作戰方略ナリト云フ説ヲ聞クニ左ノ如クナリト云フ容易ニ信スヘキニ
アラスト英公使記シテ亦參考ニ倍ス

南洋艦隊ノ一半ハ吳淞ヲ根據トシ長江筋及附近沿岸ヲ警戒シ他ノ半ハ
台灣ヲ根據トシ進ンテ我琉球及大嶋ヲ攻撃スルノ状ヲ示シ以テ我艦隊ノ
勢力ヲ分割セシメ北洋艦隊ニ威海衛ヲ根據トシ該港ト朝鮮間ノ海面ヲ扼

守シ大同江ヲ占領シ陸兵ハ汽船ヲ以テ大同江ヨリ上陸セシメ平壤ヲ根拠ト
シ以テ京城ニ進軍スヘシト云フ

別紙

北洋各艦船備付奥形水雷負數表

定遠	(一一)	一九	鎮遠	(一〇)	一一
致遠	(一一)	一一	濟遠	(六)	六
靖遠	(一二)	一二	經遠	(一二)	一一
來遠	(一一)	一一	廣濟	(一〇)	一〇

合計九一 (八三)

右、外旅順奥形水雷庫ニ存置シタルモノ六七十尾アリト云フ

庫内貯存モノヲ以テ水雷艇ニ供給ス

奥形水雷ハ最初二百尾ヲ購入シタルモ試験畢ニ兩回ノ爆発ニ由リ
損壞ノハ紛失シタルモノヲ除キ以上ノ如シト云フ

() 分八細谷以佐、報告ニシテ光緒十六年六月、調査ニ係ル

八
六
五

[illegible]

大正

1630

瀧

(45)_B

廿七年七月廿八日

○清兵出發、用意

角田 大佐 兼 林宛

天津練軍中營砲隊四哨及護衛營槍隊兵少左後兩

(四百人)

哨(二百人)ハ汽船ノ来着ヲ待チ先ツ威海又ハ大連灣ニ到リ

南来ノ汽船(装兵船)ト合シ共ニ朝鮮牙山ニ赴クト云フ

大本營

清(45)B

廿七年七月廿五日

○清國の出師準備

劉公の陸軍中盛軍ハ尤モ能ク整備シ直ニ出兵スルヲ得ベシト云々
他ハ未タ之ニ如ス然レモ未タ可ナリ海軍ニ至テハ從來經驗ナクソノ準備
モ充分ナラズ(何ヲ指シテ云フヤ)今日僅ニ戰時準備ト云フモノハ八分位ニ
ナリ海上戦争ハ到底備案ナレコトヲ以テ李ハ素ヨリ朝廷モ戦ヲ好
マズ魯ニ調停ヲ托セシ所以ナリ想フニ李ハ心中ハ日本若シ譲ラサレバ
談判上遷延時日ヲ経過シ軍備整備ヲ俟ツテ然後開戦ニ及
テ積リナルモ素ヨリ定見成算アルニ非スト